

Nutrition Support Times

胃が動かない時に経腸栄養をすすめる方法

盲目的十二指腸 or 空腸チューブ留置法

経鼻経胃栄養を開始したところ嘔吐を繰り返し、十分な栄養を投与できないケースが増えています。この場合チューブの先端を十二指腸またはトライツ靭帯を超えた空腸の水平脚に留置する方法が望まれます。その方法を一つご紹介しましょう。

【準備するもの】

- ・ゼオンチューブ 1本
- ・セイラムサンプチューブ (12~16Fr などお好みで) 1本
- ・50cc カテーテルトップシリンジ 1本
- ・オリーブ油 10cc 程度
- ・プリンペラン 1A



【下準備】

- ・絶食期間を設けるか、胃管からのドレナージによって、胃内容物をなくしておく。
- ・手技の 30 分ほど前に、プリンペラン 1A を静注しておく。
- ・ゼオンチューブの内腔あるいはガイドワイヤをオリーブ油で浸しておく。
- ・ゼオンチューブ全体をオリーブ油に浸すと、摩擦で目盛が消えてしまうことがある。

【実際の手技】

- ・まずゼオンチューブを鼻腔より挿入し、胃内に留置する。

- ・この時、55cm の目盛(最初の目盛)を目標にするとわかりやすい。
- ・胃内に留置したら、胃内の空気や内容液を確実に抜いておく。
- ・ガイドワイヤを 5~10cm 出し入れしてみて、抵抗がないことを確認する。
- ・この時、胃内でチューブがとぐろを巻いていると、抵抗が強くなる。
- ・抵抗がある場合は、抵抗がなくなるまでチューブを浅くし、そこを基準点とする。
- ・続いて、100cc の空気を注入して、そのほとんどがシリンジで引けることを確認する。
- ・ここまでで、チューブがとぐろを巻かずに、先端が胃内にあることが確認される。
- ・ここからは、チューブを 5cm 進め、ガイドワイヤを出し入れしてみる作業を繰り返す。
- ・もし、ガイドワイヤの抵抗が強くなった場合は基準点まで引き抜き、やり直す。
- ・チューブが 75cm(体格による)まで挿入されたら、100cc の空気を注入する。
- ・ただちに空気をシリンジで引き、引けた量を確認する。

- ・20cc 以上ならチューブの先端は胃内にある。基準点まで戻るか、もう少し挿入してみる。
- ・20cc 未満なら、チューブの先端は幽門輪を超えていると判断する。
- ・チューブに空気を注入する際の腹部聴診所見は、位置確認の参考になるかもしれない。
- ・チューブ先端を空腸まで進める時も、ガイドワイヤに抵抗が出現しないことを確認する。
- ・チューブが十二指腸に達することによって、ガイドワイヤの抵抗が強まることもある。
- ・十二指腸チューブの留置に成功したら、逆側の鼻腔より胃管チューブを留置する。
- ・この時に胃管チューブを出し入れすると、十二指腸チューブも動く可能性がある。
- ・両方のチューブが留置されたら、胸腹部レントゲン写真で位置確認をする。
- ・最終的にガイドワイヤを抜く際に、チューブが跳ねる可能性があるので、そっと抜く。

NCM 講演会 予定(第4木曜日)

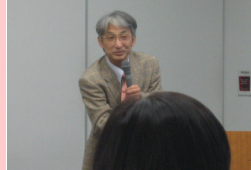
月日	内容	担当
3/25	呼吸器の栄養	立川先生
4/22	血糖コントロールのメカニズム (経口摂取 vs 高カロリー輸液)	岩倉先生
5/27	栄養超基本	東別府先生

NSTカンファレンス・回診

毎週水曜日 pm1:00~8 北(861) NSTカンファレンスルーム

編集後記

残念ながらNSTはチーム医療ということで、どこの部署に所属するのではなく活動していますので、全く予算がついておりません。そのため必要物品も嚥下関係で神経内科、褥瘡関係で形成外科が関わっているということで、いつもお心づかいいただき、元気の糧をいただいています。幸原部長、月江部長いつもありがとうございます。今年も何とか耐え忍んでいけそうです。



NCM 講演会

3月4日 501号会議室で、武庫川女子大学の雨海先生の「栄養と感染」というテーマで楽しい講義をいただきました。雨海先生は臨床栄養の分野では大変有名な先生でありまして、全国の講演会にもひっぱりだこで、お忙しい中わざわざ当院に足を運んでくださいました。

今回はどんな話をしていただけるか始まる前からとってもワクワクしていました。するとはじめは消化管機能について、腸管粘膜免疫はどのようなしくみで成り立っているのか、というところから始まりました。細菌の侵入による感染が起こると、細胞の内と外で抗原抗体反応など、たくさんいろんなことが起きていることを詳しく話されました。また、栄養が不足した低栄養自体が低栄養症候群といわれる病気であり、それはサルコペニアといって筋肉量がどんどん減ってしまい、結局免疫も抑制され易感染性へと導いて悪循環を起こしてしまうようになってしまいます。栄養を維持していくことの大切さと、必要性についてをおしえていただいたように思います。楽しいユーモアたっぷりの先生のお話で、本当に時間があっという間に過ぎた講義でした。